

産地戦略

実施期間 令和5～6年度

実施主体 栃木県
都道府県 栃木県
対象地域 宇都宮市
対象品目 水稲（主食用）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	● 温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	● 温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

環境配慮に対する生産者及び国民等の意識はみどりの食料システム戦略等関連する諸政策の効果によって日々高まりを見せつつも、現在はその成長過程にあるものと考えられる。バイオ炭施用については、生産者等の環境意識の高まりとともにその技術の価値が高まるものと思われるため、当面は環境配慮に対する高い意識を持つ限られた生産者のもとで試験的な導入や効果の検証を重ね、全国的な生産者及び国民等の意識の高まり、バイオ炭の導入に係るコスト等を注視しながら、段階的に地域全体へ展開していくことを目指す。水管理システム、秋耕はその効果が農業者にも実感しやすいことから大規模生産者の100%導入を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名													

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	4432	▶ 4432	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.7	▶ 40	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.7	▶ 40	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.7	▶ 40	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	ほ場にバイオ炭は施用していない	▶ ほ場へのバイオ炭の施用	もみ殻くん炭を施用することによる炭素貯留効果
省力	自家用車や徒歩によるほ場見回り	▶ 自動水管理システム導入による水管理	作業時間（ほ場見回り時間）の削減
環境	春耕起を実施している	▶ 秋耕起の実施	水田から排出されるメタンガスの削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	バイオ炭（もみ殻くん炭）施用量	0kg/10a	▶ 40kg/10a	
省力	ほ場見水回り時間	2.6時間/10a	▶ 0時間/10a	
省力	メタン発生量	春耕	▶ 秋耕	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

マニュアルを活用し生産者に技術指導を行う、併せて環境負荷低減の取組による農産物であることを消費者にもアピールし、消費者の購入意識の醸成を図る。

関係者の役割

関係者名	経営技術課・河内農業振興事務所	生産者		
役割	マニュアル作成及び技術指導による技術の普及	技術の実証及び導入		

その他